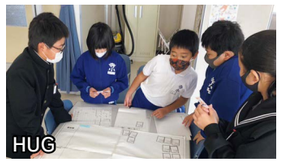
寺津中１年生・寺津小4年生「合同防災学習」

防災リーダーとしての意識向上をめざし、中学生が主体的に小学生と関わり合いながら「避難所簡易グッズ作り」「ＨＵＧ」や「防災知識の伝達」に取り組みました。また、同じ地域で生活するもの同士で、発災時に協力して救助活動に取り組めるような良好な関係作りをめざして実践しました。


HUG

避難所簡易グッズ作り

・ＨＵＧでは、トイレの場所やペットの場所など中学生と相談して決めました。本当に地震が起きた時にはもっと多くの問題が出てくるのだろうと思いました。
・４年生の子に伝えるためには、私たちが正しい知識をしっかりと理解する必要がありました。近藤先生に教わったことを何度も復習したり、グッズ作りを練習したりしました。４年生の子が真剣に聞いてくれて、たくさん質問してくれたのでとてもうれしかったです。

寺津小4年生「防災学習施設『名古屋市港防災センター』訪問」

９月に実施した近藤アドバイザーによる「防災講話」、「防災学習」をきっかけに、防災について関心をもち、学び始めた４年生。１２月の中学生との合同防災学習から、新たな疑問をもつことができました。そこで、防災についての学習をさらに深めるため、名古屋市港防災センターを訪問し、「地震」「伊勢湾台風」などの防災体験学習と、近藤アドバイザーによる講義を行いました。

近藤アドバイザー講義

地震体験

寺津中学校「避難訓練」

近藤アドバイザーから「自分たちで考え、判断し、行動する力を付けていくことが大切である」とご指導いただき、本事業で防災学習に取り組んできた１年生が防災リーダーとして今回の避難訓練を企画しました。全校生徒には無告知、昼休憩中に大地震が発生したという想定、さらにけが人役の生徒をつくることで、生徒や職員が臨機応変に対応しながら避難することを目指しました。

１年生による振り返り

けが人対応訓練

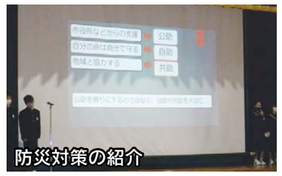
避難完了後に行った振り返りの会では、１年生の防災リーダーは「まずは、自分の命は自分で守る」「中学生として、守られる側から、守る側へ意識を変えていきたい」と、全校生徒を前に、力強く語ることができました。

【生徒の感想】・教室で、クラスの子が『シェイクアウト！』と叫び、その声でみんな一斉に机の下に避難しました。瞬間的に自分たちで考え、行動することの大切さを実感しました。
【職員の感想】・生徒以上に職員にとって有意義な訓練になったように思う。発災時には、マニュアル通りにいかないことがほとんどだろう。我々職員が自ら考え行動に移すことが何よりも大切だと感じた。

寺津中１年生「防災学習発表会」

１年生７８名が３グループに分かれ、本事業を通して学んだ「防災対策の紹介」、「避難所簡易グッズの作り方」、「避難所の運営」などについて、より分かりやすく伝えるためにスライドを使用したり、自分たちで考えたクイズや漫才などを披露したりして発表することができました。また、近藤アドバイザーに紹介していただいた「いつもおかに」ソングを１年生全員で手話をまじえて披露することができました。会の最後には、本事業で１年間ご指導いただいた近藤アドバイザーからご講評をいただいたり、今後の防災学習へのご助言をいただいたりしました。そして、本事業のまとめとして、地域にこの学びを広げるために、発表会を撮影し、ＤＶＤとして市内全小中学校や義務教育学校、自主防災会などに配布しました。

防災クイズ


防災対策の紹介

簡易スリッパ作り

「いつもおかに」の紹介

・「防災学習を始めた頃は、私たちには何もできないかな…と思っていましたが、この学習を通して、私たちが助けられる側から助ける側になれると思えるようになりました。」
・「私たちが動かなければ、多くの命を助けることができないと思うので、まず私たちが動くようにしたいと強く思いました。」

今後も学校・地域・行政が連携し、学校安全に係る取り組みをさらに推進していきます！

愛知県西尾市

令和２年度 学校安全総合支援事業 活動報告書

「守ろう、支えよう、大好きな故郷（ふるさと）」

【はじめに】

西尾市は、平成２６年５月に愛知県が公表した南海トラフ地震の被害予測調査結果において、長い海岸線と軟弱な地盤を抱えていることなどから、県内で最も深刻な被害が予測されています。特に津波被害が危惧されており、本市では平成３０年３月に「津波浸水避難シミュレーション（現在：津波避難計画）」を作成し、市民の皆様には、津波発生の際は浸水想定区域外へ避難することを推奨してきました。

そのような中、平成３０年度より愛知県教育委員会から本事業の委託を受け、学校安全に向けた取り組みを進めてきました。平成３０年度は、ほぼ全域で津波被害が危惧されている「一色地区」を、令和元年度は、津波被害が広い範囲で危惧されている「吉良地区」を、今年度は、引き続き津波避難を周知していく必要のある「寺津地区」をモデル地域とし、命を守るための防災活動を進めてきました。

【事業の名称】

昨今、全国各地で災害が発生しており、これまで以上に防災に対する意識強化を図るとともに、学校安全に係る取り組みをさらに進めていくことは重要課題となっています。一方で、災害に対して過剰になりすぎることは、故郷に対する愛着が薄れてしまうことにも繋がりかねません。子どもたちの中には、この先何十年と地元で生活し、地元で活躍する子どもも多くいるはずです。そこで、児童・生徒には「防災」に関する学習を通して、有事の際は故郷を守り、支えていける防災リーダーとして活躍できる人材となってほしいという願いを込め、本事業の名称を**「守ろう、支えよう、大好きな故郷（ふるさと）」**としました。

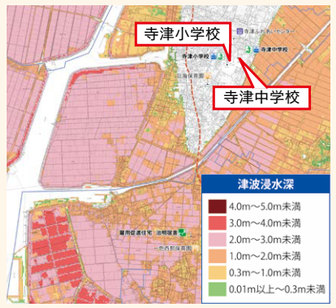
【事業の主な目標】

・児童生徒が地震、津波に対する正しい知識を身に付けるとともに、災害発生時には**防災リーダーとして積極的に活動できる姿**を目指す。
・児童生徒が取り組んだ成果等を自ら外部に発信していくことで、**学校間、地域間の防災に対する意識の差の解消**を目指す。

【モデル地区及び拠点校の設定】

【モデル地区：寺津地区（中学校１校、小学校１校）】
【拠　点　校：寺津中学校】

現在、市内の学校の多くは、津波発生の危険がある場合、児童生徒が在校中であれば高層階へ垂直避難することになっています。しかし、学校にいない場合（在宅中など）であれば、原則として津波浸水想定区域外に避難することになります。それらを踏まえ、幅広い避難方法の習得や避難所開設について理解する必要がある寺津地区をモデル地区に設定し、事業を進めることにしました。また、自らの命を守ること（自助）はもちろん、他者を守る意識を育てること（共助）が大切となると考え、防災リーダー育成の観点から寺津中学校を拠点校とし、寺津中学校の１年生を中心に防災活動を進めていきました。



【実践委員会の設置】

本事業を円滑に推進していくために、**学校関係者、地域団体、行政で組織した実践委員会**を立ち上げました。年３回の実践委員会を通して、より効果的な活動方法などについて意見交換をしたり、避難訓練など防災に関わる取り組みにおける各校の課題などを共有したりすることができました。

・防災教育アドバイザー　近藤ひろ子氏（JICA 防災教育担当専門家）
・寺津地区自主防災会長、連絡協議会会長、防災委員長
・寺津中学校ＰＴＡ会長、寺津小学校ＰＴＡ会長
・西尾警察署、西尾市消防本部
・寺津中学校長、寺津小学校長及び中核教員
・県教育委員会、市教育委員会、危機管理課職員

実践委員会の様子

寺津校区町内会長会「防災訓練」

寺津小学校、寺津中学校にある防災資機材庫にある資機材の確認や、扱い方などについての講習会を実施しました。発災時に地域の方だけでも使用できるように、仮設トイレの設置、発電機や浄水器の起動・操作方法などの練習を行いました。

資機材庫の説明

浄水器操作訓練

寺津中1年生「寺津防災倉庫の見学」

自分たちが生活する地域にある防災倉庫の見学をしました。発災時に支給される備蓄食料や、中学校にある防災資機材庫には備えられていない物資などについて知ることができました。また、新たな疑問に対して危機管理課職員に積極的に質問する姿を見ることができました。

備蓄品の見学

質疑応答

寺津中1年生・寺津小4年生「防災講話」

児童・生徒に地震・津波などの災害に関する正しい知識を身につけるため、防災教育アドバイザーによる防災講話を実施しました。防災とは「命を守ること」だけではなく、「みんなと一緒に生き延びていくこと」であるとご示唆いただきました。また、「いつもおかに」ソングを紹介していただいたり、児童・生徒に今後の防災学習を進めるヒントを提示していただいたりするなど、「小・中学生でも地域の大きな力になれる！」との熱いメッセージを送ってくださいました。

「いつもおかに」ソング

近藤アドバイザーより

・中学生でもできることがあることが分かりました。そして、災害時には「助けられる側」ではなく「助ける側」になれるよう、これから防災について学んでいきたいと思いました。
・「いつもおかに」ソングのよいところは、幼い子からお年寄りまで、いろいろな年代の人たちが歌いながら防災について勉強できるところだと思います。この歌を多くの人に広めることで被害を小さくしたいです。

寺津小4年生「防災学習」

２０１４年に県防災局（現：県防災安全局）が作成した紙芝居「あしたかも！？～あいち・大地震・そのとき～」を使い授業を行っていただきました。児童たちは食い入るように見聞きし、その後の意見発表では、紙芝居の感想だけでなく防災についての自分の考えも発表することができました。

紙芝居の様子

質疑応答

寺津中1年生「防災学習施設『名古屋市港防災センター』訪問」

防災についての学習をさらに深めるため、名古屋市港防災センターを訪問し、防災体験学習を実施しました。生徒たちはグループに別れ、「地震」「伊勢湾台風」などの防災体験学習と、近藤アドバイザーによる講義を行いました。９月に実施した防災講話の内容を踏まえ、生徒たちからの質疑を行いました。「避難所に持っていくべきものは」「ペットを連れて行ってもよいのか」「家具の配置で気をつけておくべきことは」「家が浸水したらどのように逃げればよいのか」など、積極的に質問をする生徒たちの姿がありました。

近藤アドバイザー講義

伊勢湾台風

・近藤先生のお話から、いざというときのために通帳や保険証のコピーがあるといいことや、命を守るための避難方法などを知ることができました。私が知っているだけでなく、両親にも今日学んだ話を伝え、家族で一緒に考えて備えようと思いました。

寺津中1年生「災害クッキング講座」

名古屋文化短期大学の山田実加教授をお招きし、「防災を楽しみながら、防災意識の向上を目指す」をテーマに、災害時の食に特化した講座を行い、災害時に活用できる調理方法であるパック・クッキング法（ポリ袋とカセットコンロを使用）に取り組みました。「災害時に温かいものを食べることができれば身体も心もなごむし、また、洗い物も少なく、簡単に調理ができる良さがある」とご指導いただきました。

山田実加教授

山田実加教授による説明

・災害時に温かいものが食べられることで、会話がはずみ、気持ちも穏やかになると思いました。
・口腔ケアは、水がなくて歯磨きができないときに便利だと思いました。いざというときのために備えたいです。

寺津中1年生「避難所簡易グッズ作り」

近藤アドバイザーのご指導のもと、新聞紙や広告紙を使用しての「食器」「座布団」「スリッパ」作りに取り組みました。発災後の避難生活において、身近にあるものをひと工夫して活用することでより快適に過ごすことができること、物がなくても知恵を出し合えば解決できることなどを学びました。

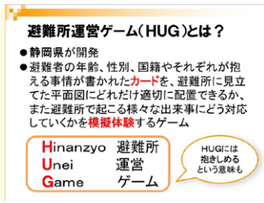
近藤アドバイザーによる説明

座布団

・「スリッパ」は段ボールを入れるなど底を厚くする工夫をすることで、より使いやすくなることがわかりました。
・「座布団」は思っていたより厚みがあって座り心地がよいので、避難所でお年寄りや赤ちゃんのために作れるようにしたいです。
・「食器」のお皿は、普段の生活の中でも使えるのでたくさん作って備えておきたいです。他にも作れるものがないか自分でも調べて作ってみたくなりました。

寺津中1年生「HUG（避難所運営ゲーム）学習」

様々な事情を抱えた避難者を適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験することで、避難所運営について考えるきっかけとするためにＨＵＧに取り組みました。避難されてきた方々のそれぞれの状況を考慮し、より過ごしやすい避難所作りをめざし、グループごとに相談しながら実践することができました。



HUG

・コロナなど感染症拡大防止のために、「密」にならないような工夫が必要だと感じました。受付のやり方、別室での避難など、今までとは違う方法を考える必要があると思いました。
・今回は HUG を１年生だけでやりましたが、地域の方（自主防災会）と一緒にやるとよいと感じました。
・避難してくる人は、いろいろな事情をかかえているので、すべての人に合わせることはとても難しいと思いました。そんな中で、私たち中学生にできることは何があるのだろうと、グループの子と考えることができました。